

JCI-TC-203A「アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会」  
第7回全体委員会 議事録

日時：2021年11月5日（金）13:00～15:00

場所：Zoomによるオンライン

出席者：（委員長）河野，（幹事）津田，杉本，松崎，（委員）河村，谷，橋本，武田，小原，  
晋，（事務局）綿貫（敬称略）

資料：7-1：第6回全体WG議事録案

7-2：報告書目次案-20210819委員会後 r3

7-3：20211012\_WG1 第5回議事録案

7-4：20210914\_WG 議事録(案) (WG2 柱)

7-5：20211022\_WG 議事録(案) (WG2 柱)

7-6：第6回アンボンド壁WG議事録案-修正版

7-7：第7回アンボンド壁WG議事録案

7-8：第8回アンボンド壁WG議事録案

7-9：20211008\_第3回JCIアンボンドPC研究委員会WG4議事録（案）

7-10：4-4 施工法 スラブ・板\_211103

1. 前回議事録（案）の確認（資料7-1）

- ・前回議事録（案）を確認し承認された。

2. 報告会の実施方法等について

- ・報告会の実施形態，日程，費用等について，以下の議論が行われた。
- コロナのリスクを考慮し，オンラインの形で報告会開催を進める。
- 来年9月最終週（9/26（月）～9月30日（金）中の午後）に開催予定
- 配信方法としては，「ライブ配信（Zoom）＋見逃し配信（ライブ発表のZoom録画：1週間オープン）」もしくは「オンデマンド配信（事前収録動画の配信）：1週間～10日間配信」が考えられる。
- 幹事団でプログラム案を考えてみてから，招待講演の実施可否を決定する。
- 質疑応答の実施が大事なので「ライブ配信＋見逃し配信」の案を進めたい。

3. 各WG報告（資料7-2～7-10）及び報告書の作成方針について

■ WG1（梁）

- ・第5回WGが10/12に開催された。
- 最終報告書にて梁WGに関連する内容・担当者について確認した。
- 報告書の作成例として「部材の構造性能算定法」及び「プレストレストコンクリート構

造物の設計体系の現状」等の内容が紹介された。

- 第4章「施工法」の内容について、建築分野からは一体打ちの場合（アンボンド PRC）の施工事例及びプレキャスト部材を用いた場合の現状，土木分野からは外ケーブルの一般的な施工事例を中心に作成を進めることになった。

#### ■ WG2（柱）

- ・第6，7回 WG が 9/14，10/22 に開催された。
- 最終報告書内容及び進捗状況について確認した。
- 主筋をアンボンド化した場合の事例を中心に作成を進める。
- FEM 解析の研究事例について紹介があった。調査対象（4つ）何れも梁を対象とした検討であり，アンボンド PC 柱に関する FEM 解析事例は見当たらない。調査内容を WG1 と共有することになった。

#### ■ WG3（壁）

- ・第7，8回 WG が 9/6，10/25 に開催された。
- 報告書の目次案，海外文献，報告書の内容・担当者について確認した。
- 施工例がないので，E-Defense の4階試験体の壁部分の施工事例について記述する。アメリカの立体駐車場の施工事例（本年 AIJ・PD 内容）を適用引用して記述する。
- 海外設計法の紹介について，アンボンドの内容があればユーロコードも記述対象とする（アンボンドの内容がない場合はその旨記述する）。

#### ■ WG4（スラブ）

- ・第3回 WG が 10/8 に開催された。
- 最終報告書の内容・担当者について確認した。
- 土木分野ではアンボンド PC スラブの採用がないので，採用のない理由を記述する。
- 弾性解析であるが，スラブ／板でも FEM 解析事例があったので，記述対象とする。
- スラブ施工例の原稿（RC スラブ施工例との比較）を見本とし，他部材の作成を進めることになった。

#### ■ 第4章「施工法」の作成方針について

- 最初にアンボンド工法・ボンド工法の違いについて紹介（例えば，プレストレストコンクリート技術協会「フレッシュマンのための PC 講座」にわかりやすい説明が記載されているので適宜参考にする） → スラブ・梁の施工事例について紹介 → 壁の施工例（E-Defense 試験体の壁部分）の紹介，の流れとする。原稿内容は実務担当の方に適宜チェックして頂く。カタログの話よりは，どうすればアンボンド構造物が作れるのか

についてストーリーやイメージが見える内容が望ましい。

- スラブ施工例の原稿を見本として原稿作成を進める。
- 海外の事例も適宜取り入れる。本年 AIJ・PD の発表内容も適宜参考にする。
- 第2章「アンボンドプレストレストコンクリート構造とは」の内容との関係性について考える必要がある。

■ 6.2 節「研究事例」の作成方針について

- 中身は原案（FEM 解析による研究事例，ファイバーモデルを用いた解析研究事例，マクロモデルを用いた評価事例，UBRC 柱に関する研究事例等）通りが良いが，目次及び詳細内容については幹事団で改めて整理する。

5. その他

- 幹事団から，内部査読の日程や査読者，発表会の日程等を検討してアナウンスする。
- 文献・図・表番号は，節毎にまとめる。
- 最終原稿（入稿）の締め切りは来年7月末頃
- 事務局からのお願い
  - ー各 WG の議事録を報告して頂きたい。
  - ーメール審議も委員会開催とカウントされるので，関連情報を報告して頂きたい。
  - ー購入済み書籍の請求書が届いたら，事務局に送付して頂きたい。
  - ー書籍の購入費が余っているので，必要な場合は購入して頂きたい。

以上